

特集

献血



# あなたの血液が

## だれかの生命を救っている

みなさん、今や献血はたいせつな一つの仕事と言っても過言ではないでしょう。  
電車の中で、お年寄りに席をゆずると同じように、見ず知らずの人に、自分の血液を無償で提供する—まさに尊い行為といっていでしょう。あなたの血液が患者さんの心に、生命の灯をともします。

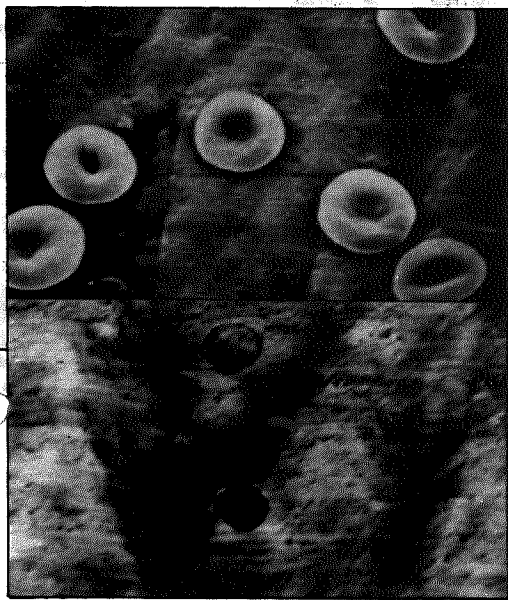
### なぜ献血なのでしょう

あなたの200400を  
血液は、現代の科学の粋を集めても、いまのところ人工的に造ることはできません。その一方で医療に必要な血液は年々その需要が増えています。

一回当たりの献血の量は、二百ミリリットルです。わたしたちの体には、ふつう約四リットルの血液が流れていますから、献血の量は全体の約五パーセントといふこととなります。つまり、あなたの血液の五パーセントが、輸血を必要とする病気の、

もちろん、二百ミリリットル採血したからといって、あなたの仕事や日常の活動には少しも影響はありません。体内の血液量は、数時間で元の量に戻ります。

尊い生命を救うために、またあなたの健康管理のためにも輸血法が日本に入ってきたのが一九一九年(大正八年)のことです。そのころは患者さんの寝ているベッドのとなり、血液の提供者を寝かせ、注射器などで採取した血液をただちに輸

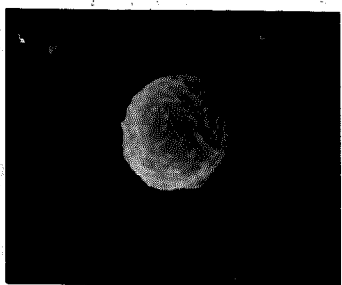


▲顕微鏡で見た赤血球(上)、血小板(下)

昭和57年5月15日

人や交通事故に遭われた人々の尊い生命を救うのです。  
一方、献血は、あなた自身の健康管理にも役立ちます。献血された血液について、血液型の判定をはじめ、肝機能や腎(じん)機能などのチェック、コレステロールの測定などいろいろな検査を行い、本人に通知し、病気の早期発見と予防の一助にもなるというわけです。

血する方法で、いわゆる枕元輸血といわれていました。  
この輸血法は血液の安全性の検査に問題があつて、一九四九年(昭和二十四年)輸血による梅毒感染という大きな事故を起してしまいました。  
それから三年後、日本赤十字社中央血液センターが開業し、無償で血液を提供してもらうことになりました。



顕微鏡で見た白血球

#### 売血の時代

血液センターの開業と相前後して、民間の商業血液銀行が生まれ、低所得者層の人々から血液を買っていたため、献血者は激減しました。自分の血を売る人たちの多くは、定職を持たず

月一回の売血が週一回になり、だんだんエスカレートし、なんと一カ月に七十回以上も売血した人がいたそうです。  
売血者の血液は、赤血球が回復しないうちに、また売血して

#### 献血一〇〇パーセント

健康を害するほど売血を繰り返した人の血液は、輸血しても効果が少ないばかりか、血清肝炎(輸血後肝炎)などの副作用を招き、大きな社会問題となりました。

高校生や大学生を中心とした売血追放運動が各地で起こり、ついに国会でも取り上げられ、政府は一九六四年八月、献血の推進を閣議で決定したので、赤十字血液センターが、各地

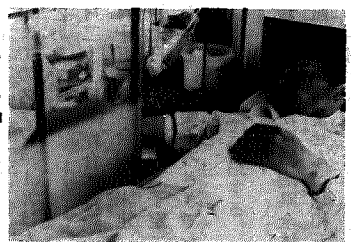
### 献血は10分間の奉仕です



③ 診断  
さらに医師による問診と血圧測定などが行われ、健康体であるかどうかを診断されます。

#### ④ 採血

以上の三点に合格しますと、採血車内で、左、右どちらの腕でもOK。およそ五分ほどで二百cc(牛乳ビン一本)が採血されます。



←



⑥新潟県赤十字血液センター



⑤ 終了  
最後に献血手帳に、献血の確認印を押していただき終了です。

○年齢が、満十六歳未満の人  
(献血できる年齢は、十六歳から六十四歳までの人)  
○体重が男子四十五キログラム、女子四十キログラム以下の人  
○前回の献血から一カ月未満の人。  
○過去六カ月以内に輸血、骨折

などをされた人。  
○抜歯して七十二時間以内の人  
○予防接種後二十四時間以内の人。  
○妊娠中または、出産後六カ月以内の人。  
○血液の比重が、〇五二未満の人。

○最高血圧が一〇〇ミリメートル(水銀圧)以下の人。  
○採血により、悪化するおそれがある循環系疾患、その他の疾患にかかっていると認められた人。  
○有熱者、その他健康状態が不良であると認められた人。

病院、診療所

写真はずべて四月二十六日黒埼町中央公民館で行われた献血のものです。